

## JPYCの会計監査支援ツール「JPYC Explorer」の提供を開始 ～ ブロックチェーン上のステーブルコイン取引を検証するツール ～

アステリア株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：平野洋一郎、証券コード：3853、以下アステリア）は、日本円建ステーブルコイン<sup>\*1</sup>JPYCの会計監査を支援するツール「JPYC Explorer（JPYC エクスプローラー）」を合同会社暗号屋（本社：福岡県福岡市、代表：紫竹佑騎、以下暗号屋）と共同開発し、2026年4月1日より提供開始することを発表します。

### ■JPYC Explorer 提供の背景

JPYC株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：岡部典孝、以下JPYC株）が2025年10月27日から発行を行っている日本円建ステーブルコインJPYCは、国内のみならず国境を越えた送金・決済を迅速かつ低コストで実現する技術として注目されています。一方で、上場企業や地方公共団体がJPYCを利用するためには、技術的な先進性やコスト面だけではなく、会計監査においてブロックチェーン上の監査も求められます。



こうした要請に対応するために、アステリアはブロックチェーン監査ツール「Lensa」の実績を持つ暗号屋と提携しJPYC Explorerを開発。本製品は、監査法人や大手企業が「自社構築・自社管理型フルノード<sup>\*2</sup>」を保有し、ブロックチェーン上の取引の実在性を自ら検証する体制を構築できるツールです。JPYC Explorerを導入することで、外部のツールやAPI<sup>\*3</sup>サービスへの依存を排除し、取引検証の全プロセスをコントロール下に置くことが可能になるとともに、直感的なインターフェースにより、複雑なブロックチェーンデータを分かりやすく可視化し、監査の効率を向上させます。

JPYC Explorerは、日本公認会計士協会が公表している「Web3.0 関連企業における監査受嘱上の課題に関する研究資料」（業種別委員会研究資料第2号）で言及されている「ブロックチェーンノードから直接データを取得する手法」を実現。自社管理のフルノードから取得したデータは、監査法人が求める高い信頼性要件を満たし、内部統制の観点からも最適な取引検証体制となります。

### ■仕様

対応ステーブルコイン	JPYC, USDC <sup>*4</sup> （順次追加予定）
対応ブロックチェーン	Avalanche, Ethereum, Polygon
インフラ	クラウド環境またはオンプレミス（物理サーバー）

### ■価格

基本料金（税抜き）	月額50万円～ ※教育、サポート込み
オプション	監査対象1社あたり月額5万円～ ※JPYC扱い量による

### ■今後の展開

両社は、JPYC株と連携し、企業におけるJPYCの活用において、監査に耐える環境構築を推進し、企業や団体での導入を加速させてまいります。さらに、暗号屋代表の紫竹佑騎氏は本製品の提供開始と同時にアステリアのステーブルコイン事業のアドバイザーに就任予定です。

## JPYC(株) 代表取締役 岡部典孝氏 コメント

「日本円建ステーブルコイン JPYC の発行が進む中で、企業や自治体が安心して利用できる環境を整備することは、ステーブルコインの普及を進めるための重要なポイントの1つです。今回発表された『JPYC Explorer』は、取引の実在性を監査法人や企業が自らの手で検証できる体制を提供するものであり、JPYC の社会実装を大きく前進させるものと認識していますので、発表を大いに歓迎いたします。JPYC 株式会社は、アステリア様とともに今後ともステーブルコインが健全に普及するための基盤整備を一層推進してまいります」



- ※1：ステーブルコイン：法定通貨に対して価格が安定しているブロックチェーントークン。日本では、資金決済法により規定されている。
- ※2：フルノード：ブロックチェーンの全履歴を保持し、取引やブロックデータの正当性を自ら検証できるコンピュータ。
- ※3：API：ソフトウェアやアプリケーション同士が機能やデータを連携するための仕組み
- ※4：USDC：米 Circle 社（本社：ボストン市）が発行する米国ドル建てのステーブルコイン。

### ■「アステリア株式会社」について（Web サイト <https://jp.asteria.com/>）

アステリアは社会や企業を「つなぐ」エキスパートとして「ソフトウェアで世界をつなぐ」をコンセプトに、ヒト、モノ、オモイを「つなぐ」製品やサービスを提供するソフトウェア開発企業です。基幹製品の ASTERIA Warp は、様々なシステムやクラウドのデータをノーコードで連携できる製品として、1万社を超える企業に導入されています。その他、デジタル収納アプリ Handbook X は、資料や動画、Web サイトなどあらゆる情報をアプリにまとめて管理できるクラウドサービス。モバイルアプリ作成ツール Platiao は誰でも簡単に自社の業務に合ったモバイルアプリをノーコードで作成・活用できるクラウドサービス。ノーコード AI/IoT プラットフォーム Gravio はノーコードで様々な場所にある多様なデータを集約、活用し情報の一元管理を可能とするノーコードコンピューティング基盤。これらの製品提供を通じて、DX や業務の効率化を推進しています。また、（一社）ブロックチェーン推進協会、（一社）ノーコード推進協会などの設立に参画するなど、様々なイノベーションを推進し新しいテクノロジーや価値観を普及啓発する活動にも取り組んでいます。

### ■「合同会社 暗号屋」について（Web サイト <https://www.ango-ya.org/>）

合同会社暗号屋は、「ブロックチェーンが拓く新しい経済活動を生み出し、社会実装する」をミッションに、福岡と東京を拠点として活動するブロックチェーン技術専門組織です。マーケットメイク事業、フィルター事業「Crescent」、NFT デジタルメディアプロトコル「VWBL」など、複数の自社プロダクトを展開し、Web3 の社会実装を推進しています。

### 【プレスリリースに関するお問い合わせ先（報道機関窓口）】

アステリア株式会社 広報・IR 部：齋藤ひとみ

TEL: 03-5718-1297 / 携帯電話: 080-7709-5212 / E-mail: [press@asteria.com](mailto:press@asteria.com)

### 【製品に関するお問い合わせ先】

アステリア株式会社 ステーブルコイン事業部

TEL: 03-5718-1250 / E-mail: [sc@asteria.com](mailto:sc@asteria.com)

アステリア、ASTERIA、Handbook、Platiao、Gravio はアステリア株式会社の登録商標です。  
本文中の商品名は、各社の商標または登録商標です。